

**平成30（2018）年度
研究、教育、社会・学会活動報告書**

1. 研究（本年度のみ）

教員氏名	加藤 康		職 位	教授	学 位	修士（商学）
	専門分野	産業論・企業論				
研究課題	テーマ	サプライチェーンにおける倉庫の機能				
	概要	サプライチェーン、ロジスティクスに組み込まれた倉庫の意義、機能に関する実証的研究				
本年度 研究業績	研究費	総額： 330,000 円 内訳：個人研究費 250,000 円 / 科学研究費 80,000 円 そ の 他 円				
	研究テーマ	サプライチェーンにおける倉庫の機能				
	経過と到達点	今年度は、倉庫を軸とするロジスティクス研究との関連において、また科研費研究グループのメンバーとして、実態調査をふまえて日本経営学会にて報告を行うことができた。次年度は引き続き、学会発表、書籍の出版が課題になる。				

(1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文	「樹脂サプライチェーンと倉庫」	2019年3月	単著	『京都経済短期大学論集』第26巻第3号。	サプライチェーンにおけるタイミング・コントロールの問題を整理検討し、高機能樹脂メーカーと自動車産業企業との取引を例にあげ、樹脂の生産特性と JIT を担当するロジスティクス企業の意義、機能を具体的に取り上げた。

⑥紀要研究 ノート等					
⑦学会での 口頭発表、 討論者（デ ィスカッサ ント）	「ロジスティクスと タイミング・コント ロール」	2018年9 月	単	日本経営学会 9 2 回大会	サプライチェーンにおける倉 庫の本質、意義、機能について タイミング・コントロール研究 と関連付けながら、造船用厚 板、自動車用薄板等の事例を取 り上げ、具体的に検討した。
	討論者（小阪隆秀「グ ローバルサプライチ ェーンにおける競争 優位形成と『支配』 概念」	2018年9 月	単	企業経済研究会東 西合同研究会	自動車産業における「製品アー キテクチャ」を媒介とする環 境と組織の大きな変化のイン パクト、「バリューチェーンに おける支配の変化」を「社会か らのガバナンス」という大きな 枠組みの中に位置づける小阪 報告に対して、グローバルサブ ライチェーンによる競争の焦 点、「過剰同調」メカニズムの 作用のありよう等についての 検討必要性を指摘した。
	討論者（廣畑伸雄「天 然ゴム手袋製造企業 の原材料調達戦略」	2018年9 月	単	アジア経営学会第 25回全国大会	タイにおける天然ゴム手袋製 造企業の原材料調達等を具体 的に紹介する廣畑報告に対し て、そこでの「戦略」性の所在 等について基礎的な確認を行 なった。

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書				
⑨単著書・ 単訳書				

(3) 外部研究資金獲得（競争的資金獲得）

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)	サプライチェーンにおけるタイミングコントロール—市場適応方法の比較研究—	2015年4月～ 2019年3月	文科省科研費基盤研究(B)	本研究の目的は、サプライチェーンにおける生産と販売の接触面（インターフェイス）に焦点を当てて、供給企業及び需要企業の競争力向上を促す企業について考察することである。今年度はこれまでの研究成果をふまえて日本経営学会全戸幾大会にて報告を行った。現在同共同研究の集大成として、共著の刊行を具体的に検討中である。

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	経営学総論、中小企業論、経営経済特別講義Ⅰ、経営経済特別講義Ⅲ、	企業論、経営英書購読Ⅰ、経営経済特別講義Ⅱ
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ	ゼミナールⅢ
	実習		
教育内容・方法 の工夫	<p>◆ 講義科目</p> <p>1回生前期配当「経営学総論」では、主に1回生を対象として、経営学の基礎知識を解説すると共に企業の実際に触れることを意識した。「企業論」では、前年度までと同様、経営分野の基礎的理解とともに、サプライチェーンに関連する論理と多様な実際のありようを紹介することに重点をおいた。今年度は一昨年までと同様に出席カード裏面に毎度コメントを記入に提出するよう求めた。今年度も講義時の私語に対する厳重な注意を行った。</p>		

	<p>◆ 演習科目</p> <p>2017 年度生は、ゼミ合宿（兵庫県湯村温泉）を行い、卒業研究中間報告、散策等積極的な交流を行った。今年度もグループ単位(今年度は5グループ)でのヒアリング調査(有太田製麺所,㈱ポムフード、㈱ロツテ・滋賀工場、㈱西利、(有)丸常蒲銚店、㈱大安、㈱大藤、大寅蒲銚㈱、(有)森製麺所、北極星産業㈱、(有)古株牧場)を行い、充実したゼミ運営を行うことができた。ゼミ内5班の成果を前年度に引き続きゼミ論集として製本する。2018 年度入学生に対しては、現場見学（ヤマト関西ゲートウェイ:12月26日実施）及び交流会を行った。</p>
	実習科目
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）

(1) 課外活動

①研修旅行 国内	ゼミ研修旅行（2018年10月13・14日於三好屋：湯村温泉）
②研修旅行 国外	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

（1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長	
②委員・アドバイザー	

（2）講演会

分 類	活動・講演の概要
③講演者・登壇者	

4. 特記事項（本年度のみ）

--